



KONICA MINOLTA

## 夏の星座解説

---

S-203 (14分08秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

## 夏の星座案内

M 綺麗な音楽

・ 太陽

NA

(日周運動)

夏の太陽は、日中、空高くまで昇り、沈むときは、北よりの西の地平線に消えてゆきます。

夜になると昼間の汗ばむような暑さが、いささか涼しい風になり、見上げた空には、雄大に流れる天の川と星たちが、目に飛び込んできます。

では、これから、辺りが暗くなるまで、しばらく待つことにしましょう。

(音楽盛り上がる)

(日の入り)

(ブルーライト残す)

(音楽 句切りよく終わる)

M 都会の星空の音楽

・ 方位灯

N  
A

夏の星々です。  
しかし、町の中から見上げた空は、星がまばらにしか見えません。

そんな中、頭の真上近くに、明るい星を見つけることが出来ます。

天高くに見えることから「天上の青ダイヤ」と呼んだ人たちもいたそうです。

この星は一等星の「ベガ」。

夏を代表する星の一つ。

そう、日本では七夕物語の「織りひめ星」として、有名です。

たいへん明るい星なので、夜空の明るい町なかでも、きつと見つけることが出来るでしょう。

このベガは、「こと座」の星。

小さな竖琴の姿を西洋の人たちは描きました。

○ こと座

琴の名人、オルフェウスの竖琴が、天に昇って星座になった、と、ギリシャ神話は伝えています。

「こと座」から少し目を低いところへ移してゆきます。

そこには、一羽の鷺が勇ましく飛ぶ姿を描いた、

「わし座」があります。

○ わし座

P アルタイル

(い)でわし座OFF(

この鷺はギリシャ神話に登場する神様の中で、一番偉い大神ゼウスが変身した姿だと、いわれています。

「わし座」の中に見える明るい星は、

一等星の「アルタイル」。

「アルタイル」とは「飛ぶ鷺」という意味。

星座の絵を消してみると・・・

アルタイルの両脇に暗い星が1つづつ、アルタイルから同じ間隔の所にあるのがわかります。

アルタイルを鷺の胴体と見立て、両脇の星たちが羽。

そう想像すると、鷺は羽を広げ、空を自由に飛び回っているように見えませんか？

昔の人はその星の並びから、真ん中の明るい星を、「飛ぶ鷺」、「アルタイル」と、呼ぶようになったそうです。

そして、この「アルタイル」は「彦星」としても、有名です。

夏の星空に見える、「織りひめ星」と・・・

「彦星」。

この二つの星の間を二人の仲を裂くように「天の川」が流れています。

しかし、町の明かりが邪魔をして、天の川の姿を見ることができません。

明かりを消して、満天の星空にしてみました。

(音楽が変わる)

P ベガ  
P アルタイル

(満天の星空へ)

P 暗黒星雲を指す

P デネブ

O はくちよう座

O 北十字 線

P ベガ  
P アルタイル  
P デネブ

明るい星から暗い星まで、沢山の星が現れました。  
そして、「織りひめ星」と「彦星」の間には、淡い光の帯がみられます。

これが「天の川」。  
天の川は星の集まりです。

所々、天の川の中に黒い穴が開いたような所が見られますが、それは、光を通さない、暗黒星雲があるためなのです。

その天の川の中に、明るい星を一つ見つけることができます。

一等星の「デネブ」。

「デネブ」とは「尻尾」とか「おしり」という意味があります。

名前の通り、「デネブ」は白鳥の尻尾の辺りに輝く星なのです。

「デネブ」は、はくちよう座の星。

はくちよう座の星たちは、ちようど羽を広げた鳥のような星の並びになっています。

この並びを十字架に見立てた人たちもいました。

そこで、南の方の「南十字」に対して、はくちよう座の星の並びを「北十字」と、呼んだりします。

そして、紹介してきた三つの一等星・・・

「織りひめ星」・・・「ベガ」。

「彦星」・・・「アルタイル」。

最後に「デネブ」。

○ 夏の大三角 線

P アンタレス

○ さそり 線

○ さそり座

---

N  
A

結んでみると、大きな三角形になります。

これが夏の星空のシンボル、「夏の大三角」です。

(音楽 句切りよく終わる)

M 星空の音楽

次は天の川を南の地平線へとたどって行きましょう。

すると、赤い色をした、明るい星が見つかります。

まるでお酒を飲んで、酔っぱらって赤くなつたみたい。

日本のある地方では「酒酔い星(さけよいほし)」と呼んだそうです。

西洋では、火星と同じように赤く光ることから「火星の

敵」つまり「アンタレス」と呼びました。

それが、この星の名前です。

「アンタレス」と辺りの星を結んでみると、アルファベットの「S」の字のようです。

または、魚釣りに使う釣り針でしょうか？

星座では、この星の並びに、毒を持った、ある生き物の姿を描きました。

「さそり座」です。

この蠍を弓で狙っている人がいます。

その人は、「いて座」のケイローンです。

○ いて座

ケイローンはケンタウルス族の出身。  
その昔、ケンタウルス族の人たちは、上手に馬を乗りこ  
なしたと云われています。  
それはまるで、人間と馬が一体になったかのような感じ  
うです。

そこで星座の絵では、半分が人間、半分が馬という、変  
わった姿で描かれたのです。

(音楽 句切りよく終わる)

M エンディング音楽

N A

夏は天の川が幅広く、また、明るく見ることが出来る季  
節です。

特に「いて座」の辺りは星の数が多く、一番、はっきり  
と見ることができます。

暑い日中が終わり夜になると、空には一等星を中心にし  
た星たちが瞬きはじめます。

一年のうち、気軽な服装で空を見上げることができるの  
も、夏。

どうぞ、今度は本当の星空で、今日、ご紹介した星座を  
見つけてみてください。

P いて座のあたり

おわり